

ふるさと納税を増やす対策は

寄附者に共感が得られるような事業を企画する



児玉 孝徳 議員

ふるさと納税は減少傾向にある税金を補てんしてくれる貴重な財源である。本町出身者だけでなく、できるだけ多くの応援団を獲得し、寄附金という名の納税を期待したいが、ふるさと納税の5年間の寄附の実績と、基金の額はいくらか。

ふるさと納税の寄附額は減少している

町長

ふるさと納税寄附金の過去5カ年の実績は次の通りであり金額は減少しているが、寄附件数は増えている。
基金残高は13億5千万円である。

5カ年のふるさと納税の実績

年度	寄附金額(円)	寄附件数(件)
26年	11,700,096	539
27年	2,721,159,600	63,731
28年	1,674,606,126	55,309
29年	2,313,052,466	47,174
30年	1,693,267,270	63,783

※ふるさと応援基金残高1,356,274,857円(平成30年度末)

なぜ寄附金額が減ったのか

児玉議員

志布志市は27年度の7億4千万円から30年度は32億7千万円と毎年増えている。本町は27年度より寄附件数が増えているのに寄附金額はなぜ減ったのか。取り組みに問題はないのか。

制度改正によるが今後共感の得られる対策を考える

町長

ふるさと納税制度改革により確定申告をしなくても税控除が受けられ、枠も2倍に拡充され所得の低い方も利用しているためと考えられる。また志布志市は東京に事務所を構えるなどの営業活動をやっているため寄附額は増えているが歳出も多い。本町も今後、寄附者に共感が得られる対策に取り組んでいく。

基金で特定公営単身住宅を作り人口増加をはかる

児玉議員

町内業者は人手不足により事業廃止に追い込まれるところもある。ふるさと応援基金を活用し低料金の特設公営単身住宅を作ることに、若者が集まり町内の中小事業所の人材確保、更に人口増にもつながると思うがどうか。

若者たちが入ってくる施策を今後考えていく

町長

これまでも高額なところには若者が住めないことから、単身住宅について担当課と議論している。子どもを育てていく若者

たちが入ってくる施策を大きな観点で今後考えていく。

活用法にあるリサイクル留學生プロジェクトの成果は

児玉議員

北海道東川町との連携事業リサイクル留學生プロジェクトは、世界のごみ問題を解決するグローバルな人材育成に挑戦するという事だが本町の持ち出しはこれから成果は期待できるのか。

モデル事業として実施し人材不足などの解決をはかる

町長

公立日本語学校を有する東川町と協定を結び、留學生を受け入れリサイクルのノウハウを習得させる内容で、目的型寄附で既に250万円超の寄附を得ている。本町の持ち出しは職員1名の旅費約10万円である。

子どもたちに対するネット社会での安全対策は

児玉議員

子どもが顔も知らない大人と会い事件に巻き込まれるケースが相次いでいるが、子どもに危機意識を持たせる安全対策は万全か。又、部活や将来の目的に向けた活動に取り組ませる事によりSNS以外に興味を持たせ

ることが重要だと思うがどうか。



子どもの危機意識が求められるスマートフォン

実態調査し講演会や関係機関と指導を随時行っている

教育長

今年の調査でインターネットなどで小学生が9人、中学生が23人トラブルにあっている。危機意識を持たせるために定期的に調査を行い、実態に沿った指導を関係機関やPTAと連携し講演会などを開き、更に教科・道徳・総合的な学習の時間などで指導に取り組んでいる。部活は87.3%加入している。